

Vol. 133

2016.6.17

理事長トーク Top Interview

強くて、やさしくて、面白い
病院・施設経営を目指して。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



私は今年の年頭所感の締め言葉に「強くて、やさしくて、おもしろい。それが医療法人健育会グループです。」と職員の皆さんにお話ししました。



そもそも‘強くて、やさしくて、おもしろい’という言葉は、長きにわたり富士ゼロックス社長・会長を務められた故 小林陽太郎さんが富士ゼロックス社で発表した「良い会社構想」にインスパイアされたものです。

その中で目指すべき良い会社は「強い」「やさしい」「おもしろい」を兼ね備えた会社だとまとめられています。ここでいう「強い」とは、経済的な成果を上げること、「やさしい」とは、地域社会や国際社会に貢献すること、「おもしろい」とは、社員にとって仕事にやりがいを感じ、人生がおもしろいと感じられる会社となること。

私は、この小林さんの「良い会社構想」を健育会流に以下のように解釈しました。

強 い

強い成長力、安定した経営基盤を持った
医療法人グループであること。

やさしい

7つのクライアントへ「温もり」「やさしさ」そして
「スマイル」を提供できる医療法人グループであること。

おもしろい

職員の一人ひとりが仕事をおもしろいと感じられる環境であり、
ワクワクするような仕事を実現でき、
そして自己の成長を実感できる医療法人グループであること。



これを受けて、今年、それぞれの病院・施設の予算要約書の「1年後の姿」にこの3つのキーワードを入れてもらい、職員の皆さんにとって「強くて、やさしくて、おもしろい」を実現した姿とは、具体的にどのようなものなのかを各病院・施設で掲げてもらいました。

各病院・施設で掲げている「1年後の姿」を、いくつか紹介します。

強い

石川島記念病院

CCUネットワークの一員にふさわしい診療の質の確保と症例数の達成を両立し、地域の診療所からの紹介、救急搬送も大きく増加、高度心臓病専門病院として**強い経営基盤**確立への道筋ができています。



ひまわり在宅サポートグループ

どの事業所も競合他事業所がやらない、できないことを実行しひまわりしかないと言われる事業所になっており、どの事業所も予算を達成し、**強い経営基盤**が確立されている。



やさしい

いわき湯本病院

「心のオアシス病院」が職員全員に浸透、共有されており、接遇においても職員への研修を行うことでさらに強化され、患者さんがまた来たい、安心して医療を任せられると思っていただける病院になっている。また、訪問看護、訪問リハビリ、居宅支援、通所リハビリが確立しており、安心して在宅へ帰ることが出来る**クライアントにとって優しい病院**となっている。



喬成会在宅事業部

行政との連携、地域への積極的な関わりから信頼関係ができ、地域行事の参加、行政からの相談が増えている。職員は全てのご利用者のポジティブなところを見つけ出し、介護や看護、リハを通じて元気になってもらえる話し合いができています。在宅事業部全体が丸となってご利用者の在宅生活を支えることで、ご利用者やご家族からの信頼を得て「やさしさ」があふれる**組織**になっている。



おもしろい

西伊豆健育会病院

地域包括ケアシステム構築に向けて全職員が目的を共有することで「やりがい」へと繋がっている。救急拒否0件の継続や積極的な訪問で地域に溶け込むことにより、地域から頼られ、感謝され、地域に貢献できていることを実感できている。また、残業時間が減り、有給休暇取得率が上がることで、趣味活動や興味ある分野を学ぶなど自分の時間を多く持つことができ、病院で働くこと自体が**職員にとっての面白さ**につながっている。



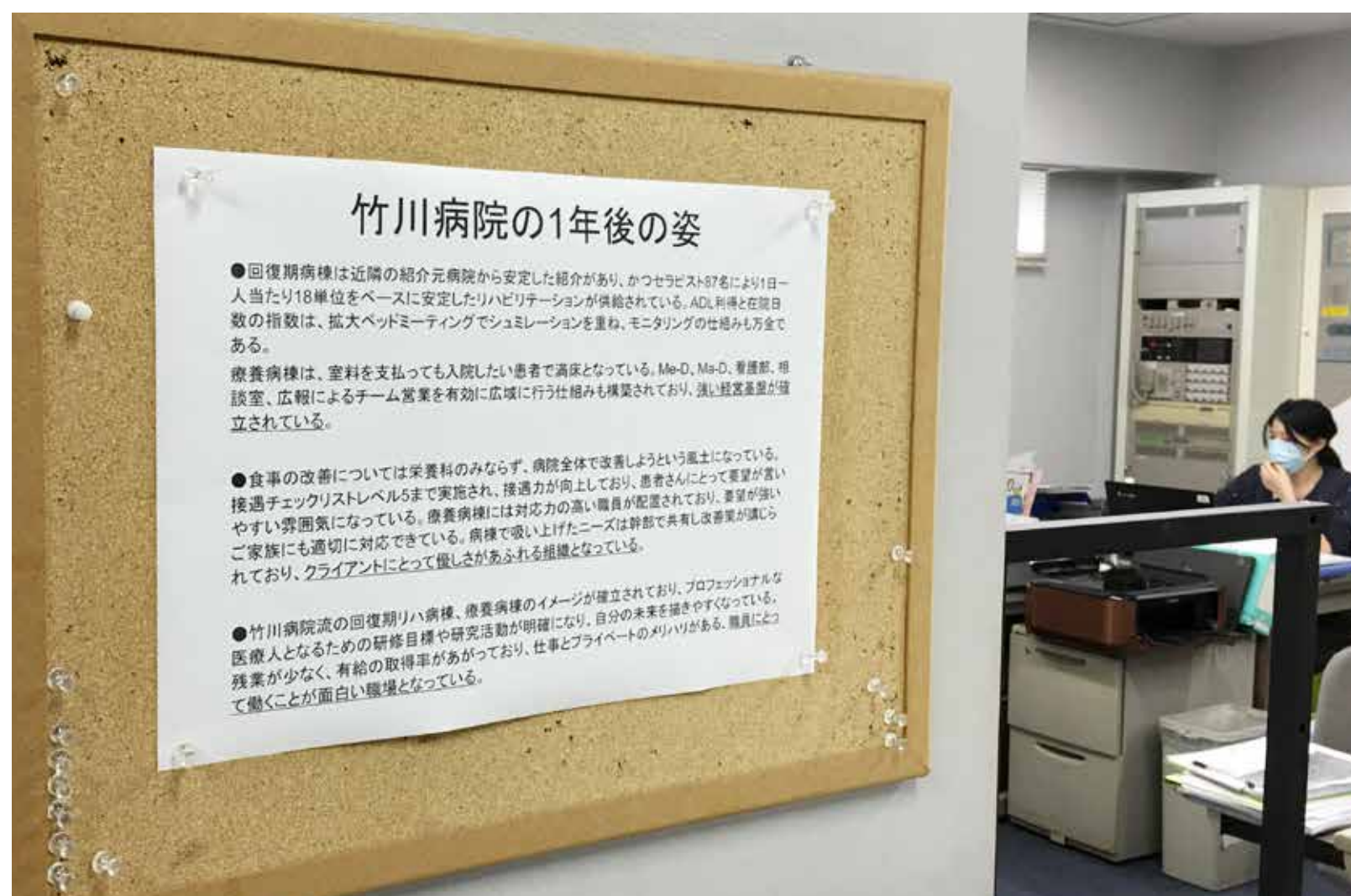
介護老人保健施設しおさい

業務の標準化が推進され、質の高い介護を提供している。認知症の理解を深めることで認知症の待機者をより良い体制で受入れる事ができている。職員は勉強（認知症・透析・看取り等）・資格取得（アセッサー、介護福祉士、ケアマネ等）の機会、他職種の連携があることで自己成長のチャンスがあり、自ら考え、行動し、ステップアップできる環境となっており、**おもしろいと感じる職場**になっている。



健育会グループでは、以前より理念プロジェクトに取り組んでいますが、これをバスの旅に例えると、ビジョンが目的地で、ビジョン達成時の映像化はバスの行き先を示すものであり、「1年後の姿」とは1年後のバス停だと考えています。

予算要約書では、このような各病院・施設の「1年後の姿」をベースに、各部署それぞれの「1年後の姿」も掲げています。そして、その目指すべき姿に確実に近づいていくために、昨年度から四半期ごとに本部の幹部職員が病院・施設に実際に赴き、その進捗状況を確認する取り組みも進行中です。



病院・施設の「1年後の姿」は、職員の皆さんがいつでも意識できるよう、見やすい位置に掲示するように指示しています。職員の皆さんも自分たちの病院・施設の「1年後の姿」をしっかり毎日思い浮かべながら、その実現に向けて日々の仕事に取り組んでほしいと思っています。



追伸

今年もCamp NIDOM 21に参加しました。

日本を牽引する経営者と学者が集まり教養を高め合う勉強会「第14回 Camp NIDOM 21」が5月の末に開催されました。私は小林陽太郎さんから頂いたご縁で、2回目より参加しています。

今年は「日本史から学ぶ日本人の行動様式」というテーマで専門家をお招きした4セッションが行われ、活気に満ちた議論で盛り上がりました。今回は小林さんが亡くなって初めての開催となりましたが、新しいメンバーも増え盛況のうちに終わり、私も刺激を受けて帰って来ました。



2016年5月28日

第14回 「Camp NIDOM 21」